



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

県引き続き5ヵ年計画 来年度策定

“恵みの沼、印旛沼再生へ”

佐倉市特集 12月県議会一般質問

歴史と自然、文化の街、佐倉市選出の伊藤昌弘議員(1期)は12月県議会で登壇し、一般質問を行ないました。特に佐倉市民の心のふるさと印旛沼の再生問題に時間を割き、水質浄化や外来動植物の対策について知事らにたどしました。さらに、千葉県の農業を守り育てるために、新ブランド米育成などについて県当局に質問、要望をしました。質疑の様様を1、2面で特集します。



パネル(特定外来植物)を示しながら質問する伊藤昌弘県議

ファーストフラッシュ 汚濁対策で調整池改良

伊藤議員 印旛沼は昭和二十七年に自然公園に指定された風光明媚な湖であり、上水道、農業用水などの水源として、さらに内水面漁業の漁場として利用されるなど、地元佐倉市をはじめ多くの県民にとって、かけがえない財産だ。

しかしながら、今日の印旛沼は都市化や経済活動の影響で、水質汚濁が進行している。印旛沼は我々の生活を映し出す鏡。そこで、

この計画を実効性あるものとするためには、科学的な評価と関係者の連携した取り組みが重要で、計画の策定に当たっては各種対策の効果を高い精度で予測・評価するとともに、住民・流域自治体・学識経験者など

がうが、印旛沼の水質浄化に関わる計画について、計画を実効性あるものとするため、今後、どのように取り組んでいくのか。

知事 かつての「恵みの沼・印旛沼」を再生し、次の世代へ継承することは、大変重要なことと考えております。

そこで、現在の「第五期湖沼水質保全計画」に引き続き、平成二十三年度には、次期五か年の計画を策定することとしております。

伊藤議員 平成二十三年度に、次期五か年計画を策定するということが、平成二十二年一月に策定された「印旛沼流域水循環健全化計画」の中では、「恵みの沼を再び」が基本理念とされている。この理念の下、知事の答弁にあった、行政を含めた関係者が連携して取り組む体制作りが重要だと私も考えている。

伊藤議員 降雨時の初期に、道路などにたまった汚水が雨水とともに流れ、沼の水を汚してしまうファーストフラッシュ汚濁対策として、どのような対策を講じているのか。

県土整備部長 ファーストフラッシュ対策として、雨の降り始めに市街地から流出するゴミや汚れを捕捉

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略 歴 ■
- 昭和30年 佐倉市に生まれる
- 昭和53年 日本大学法学部卒業
- 平成7年 佐倉市議会議員に当選(2期を務める)
- 平成19年 千葉県議会議員に当選
- 現 職 ■
- 千葉県議会 総務常任委員会委員長
- 自由民主党佐倉市支部 幹事長
- 佐倉市表町防犯防災協会 会長
- 佐倉リトルシニア野球協会 会長
- 日大習志野高校同窓会 会長

再質問
伊藤議員 調整池の改良が有効と判断された場合、今後の普及はどのように行うのか。

県土整備部長 調整池は、市、町、企業などが維持管理の主体でございます。印旛沼流域水循環健全化会議「などの場を利用いたしまして、これら維持管理の主体にその効果を説明しまして、理解を得ながら進めていきたいと思います。

●まちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談下さい!!

伊藤まさひろ 県議事務所 〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019 FAX.043-486-1616

伊藤まさひろ県議会レポート

印旛沼の外来植物 排水機場に悪影響

継続して駆除を

伊藤議員 印旛沼に繁茂する外来植物のナガエツルノゲイトウは、どのような影響を及ぼしているのか。また、県の対応はどうか。

県土整備部長 ナガエツルノゲイトウは繁殖力が旺盛な水生植物であり、沼や流入河川に繁茂することにより、河積阻害、船舶航行の妨げや水辺環境の悪化などの影響がみられます。特に、排水機場では、取水口周辺に漂着することで、ポンプの運転が困難になるなど、河川管理上、支障を来しております。

そこで、県では、印旛沼とその流域におきましてナガエツルノゲイトウの駆除を実施しております。平成二十年度までに沼内五百トン、鹿島川などの流入河川で九十七トンを駆除し、平成二十一年度は印旛放水路桑納川で三十九トンを駆除しております。

また、平成二十二年度も引き続き実施する予定であります。

要望 伊藤議員 大変な量のナガエツルノゲイトウが印旛沼で繁殖している。移動する船にも大変な影響があるとともに、機

場にかかるとしたら大変である。本場に生命・財産にかかわる話であるし、ぜひこれからも、駆除というのは大変だと思うが取り組んでもらいたいことを要望する。

高崎川河川改修の一日も早い完成を

伊藤議員 印旛沼周辺の治水対策だが、高崎川の河川改修について、進捗状況と今後の見通しはどうか。

県土整備部長 高崎川については、鹿島川合流地点よりJR総武本線までの約二・七キロメートル区間に改修に着手し、そのうち、城南橋上流側までの約一・八キロメートル区間が概ね十年に一度発生する洪水が安全に流下できる改修が完了しております。

残る上流側約〇・九キロメートル区間については、現在、樋之口橋の改築に向けた用地買収を進めており、引き続き、地元のご理解、ご協力を得ながら、樋之口橋の改

築工事を行なうとともに、上流区間の早期完成を目指して、順次、護岸整備も進めてまいります。

要望 伊藤議員 高崎川の河川改修について、一日も早い完成を目指して更なる取り組みを要望する。

新ブランド米開発、着々と

コシヒカリより美味

伊藤議員 コメの新品種の開発について、県はどのように取り組んでいるのか。

農林水産部長 県では、農林総合研究センターにおいて、早場米産地に適した、本県独自の水稻新品種の開発に取り組んでいるところです。

これまでに、食味が良く、冷害に強い早生品種「ふさおとめ」、高温や病気に強く、大粒で食味が良い中生品種「ふさかがね」を開発し、県下の水田の約四分の一の面積で栽培されています。

現在、収穫時期が「ふさおとめ」より一週間早い極早生品種や、全国的に最も食味が良いとされている「コシヒカリ」よりも、さらに、食味が良い品種などの開発を進めているところです。

再質問 伊藤議員 コシヒカリに代わる、県独自の美味しいブランド米の開発の目的は立っているのか。

農林水産部長 平成十四年から育成しており、現在有望な品種候補の絞り込みが終わったところであり、今後四年後の平成二十六年頃を目途に、育成してまいります。

要望 伊藤議員 干葉のブランド米の育成に

については平成二十六年ではちよつと遅い気がするが取り組んでいただきたい。コシヒカリよりも美味しい米であることがまず一つ、PRでき売れるお米を作っていたいただきたい。

再質問 伊藤議員 新ブランド米を開発した場合はPRの手順について、どのように考えているのか。

農林水産部長 新品種の育成の進捗に合わせ、関係団体と一体となって、ブランド化の戦略などを策定し、生産拡大また販路の開拓、効果的なPRなどに取り組む、全国に向け「日本一おいしい干葉のお米」ということ

ちばエコ農業、全国PRを
伊藤議員 「ちばエコ農業」は、河川・湖沼の水質浄化にも大変有効と考えるが、県は今後のような支援を行っていくのか。
農林水産部長 「ちばエコ農業」は、環境への負荷を軽減する農法であることから、河川・湖沼の水質浄化にも有効であると認識しております。
今後は、「ちばエコ農業」の取組面積の一層の拡大を目指し、新たな栽培技術の



議場の自席で再質問する伊藤昌弘県議

お米の検査をする伊藤昌弘県議



設備などの導入支援、環境保全型の営農活動に係る経費を助成する国の交付金制度の活用に向けた支援などを図ってまいりたいと考えております。

要望 伊藤議員「ちばエコ農業」について、「干葉の農産物は安全・安心でおいしい」と

県民に知らしめるとともに、日本全国に発信することにより、販路も広がり作りのやりがいも生まれると思うので、ぜひ、森田知事のトップセールスのような取組みを今後も続けてほしい。

佐倉市大篠塚からの道路整備を県に要望

伊藤議員 県道佐倉印西線田町バイパスの進捗状況と今後の見通しはどうか。

県土整備部長 県道佐倉印西線田町バイパスについては、佐倉市街の慢性的な交通混雑の緩和を図るため、国道296号から佐倉市の岩名運動公園までの約一・五キロメートル区間において整備を進めております。

現在、整備効果を早期に発現するため、現道拡幅部分の約〇・五キロメートルを優先的

に進めており、平成二十一年度末の進捗率は、事業費ベースで約23%、用地については面積ベースで約55%となっております。

要望 伊藤議員 現在計画中の佐倉市の事業に合わせ、佐倉市大篠塚地先から国道51号までの延長約千二百メートル区間について、県事業として整備されるよう強く要望します。

佐倉市特集

12月県議会一般質問

ふるさと佐倉のために

伊藤まさひろ県議